

2009年度

| | | | | |
|---|---|----|------|-------|
| 科目名 | 教育福祉特講 | | | |
| 担当教員 | 岡崎 裕子、桜井 智恵子、大倉 孝昭 | | | |
| 配当 | 専攻1 | | コード | 80102 |
| 開期 | 集中通年 | 講時 | 集中0限 | 単位数 4 |
| 授業テーマ | 「よく生きる」well-being社会の形成と「教育福祉」の本質 ―学校における福祉の教育― | | | |
| 目的と概要 | <p>すべての人が、この社会で大事にされ、支え合い、『「よく生きる」well-being社会』を形成していくことは、人類すべてに課せられた共通の究極目標である。well-being(福祉)は、人の「生き方」そのものに課せられた命題であり、教育が求める本質そのものである。</p> <p>本講義は、学校教育の基盤である「福祉の教育」について研究を深めるとともに、日本の福祉社会を構築し、支えて生きる「人間づくり」について考察をすすめる、自らの教育観を確立する研鑽の機会とする。また、教育と福祉の両領域における現代的ニーズをとりあげ、実態把握、社会的背景の分析を試みる。さらに、具体的対応に関する教育的アプローチと社会福祉のリソース利用を学習する。</p> <p>教育学教員と社会福祉学教員が担当する本講義の特色をいかに、両領域からの最新情報や、教育と福祉の連携のあり方について検討をすすめると同時に、福祉社会を構築しそれを支えて生きる「人のありよう」について、「人間と福祉」からの考察をすすめる。</p> <p>本授業は、講義および各自が設定したテーマに関する研究実践により実施する。</p> | | | |
| 成績評価法 | (1)日常の学習姿勢・態度 (2)教育小論文・課題報告文 (3)模擬授業の学習実績 (4)臨時テスト (5)人物成長度 等々をもとに、総合的に評価する。 | | | |
| テキスト | 第1回目の授業時に指示する。 | | | |
| 参考書 | 適時、紹介する。また、資料は必要時に配布する。 | | | |
| 履修に当たっての注意・助言 | | | | |
| 講義計画 | | | | |
| <p>I. 「教育の本質」と教育福祉</p> <p>(1)教育基本法 of 精神</p> <p>(2)学校教育と教育福祉</p> <p>(3)教育福祉がめざす目標・内容・方法・評価</p> <p>(4)小・中学校における教育福祉の展開</p> <p>(5)高等学校福祉科の教育</p> <p>II. 「教育福祉」の推進と方法</p> <p>(1)今、求められる学校</p> <p>(2)学校教育課程の基盤「教育福祉」の管理と運営</p> <p>(3)保護者との連携活動</p> <p>(4)地域社会・福祉施設との連携活動</p> <p>(5)教員の資質能力向上と研修</p> <p>・学習のまとめ(前期) ・自己学習評価</p> <p>III. 教育と福祉の両領域に重なる問題</p> <p>(1)学校の現在</p> <p>(2)家庭の現在</p> <p>(3)教育福祉問題の社会的背景</p> <p>IV. 教育福祉問題へのアプローチ</p> <p>(1)子ども主体の実践①</p> <p>(2)子ども主体の実践②</p> <p>(3)さまざまな取り組み</p> <p>(4)総括</p> <p>V. 特別支援教育の現状と課題</p> <p>(1)現状の分析</p> <p>(2)現状の分析</p> <p>(3)指導法をめぐって</p> <p>(4)指導法をめぐって</p> <p>(5)指導法をめぐって</p> <p>(6)課題と対応</p> <p>(7)課題と対応</p> | | | | |

VI. 研究

(1) 講義と研究法指導

(2) 課題研究

・事例研究(報告文)と指導講評

(3) 演習

・教科授業にある「個を伸ばす・学習集団を生かす」指導の方法について

・日常場面の事例と対応の研究・考察

・学級経営と学級づくりの基本

・保護者対応と教育姿勢

・教育小論文作成と研究討議

(4) 自己育成期録「進歩のノート」作成

(5) 自己育成記録「進歩のノート」作成

(6) 自己育成期録「進歩のノート」作成

* 上記授業中に、ゲストティーチャーによる「実践アクセス授業」を含む予定